

原発事故後の農業と地域社会の再生を読んで

東日本大震災が起こってから13年が過ぎている今なお、被害に悩み続けている人を強く実感した内容であった。外部の人間がサポートをして地域の復興に携わることは、地域再生のきっかけにはなるが、完全に地域再生とはならない。地域の人々が自発的に復興を目指して動いていることが地域再生なのであり、困難な状況から元の状態まで回復するというレジリエンスにつながる。また、読んでいて意外であったのは外部から来た若者の働きである。震災前から飯舘村に住んでいた人と比較して、飯舘村の現状を見た若者のほうが飯舘村の明るい未来を志して活動をしている傾向が高いことである。そういった人が活発的に行動することで、村の人達も前を向き続けるきっかけになるのではないかと。

聞いてみよう！あなたの知らない土の世界-放射性セシウムとの関係

セシウムは泥と相性が良く、泥の隙間にセシウムがはまり込んで接着してしまい、外からの力が加わっても移動しづらいという性質を持つという。このことから、雨によって飯舘村まで運ばれてきたセシウムが土の表面に付着している原因となっていた。そこで、陶土はぎ取り法などの方法が出てきた。しかし、農家の人たちが肥料を施肥して条件の良い土となった土壌がなくなり、汚染されていない土を客土すると、条件の悪い土壌へと早変わりしてしまう。このことも、飯舘村で農業を再開する難しさを表していると思う。また、セシウムの基準濃度を照らし合わせて、陶土剥ぎ取り法で剥ぎ取った土の上下をひっくり返すだけでも良いときがある。そうすると、肥沃な土がそこに残ることになるのだが、農家たちは施し得るはその土壌に残したくないと言う。科学的には正しくても、実装されない理由がこういうところにもあるのかなと思った。未だひと気の無いところではセシウムの濃度が高いなど震災から13年経った今でもまだまだ元の状態とは程遠いという現状から、震災の過酷さを身にしみて理解した。